

講座 ジャンル	俳句	教員名	いけだ ゆたか 池田 饒
------------	----	-----	-----------------



俳句 17 音に

四季や心の移ろいを

詠んでみましょう

私の一句（令和五年後期）

がれき下名もなき草や春をまつ

津喜枝

返し縫い仕上り真近外は秋雨

恭子

春待つや付箋の付いた時刻表

壽子

湯豆腐や褻の日の会話なしもよし

利枝子

招き猫大判抱えて春を待つ

清澄

寄り添ひて墨絵のような春の宵

和代

老いゆるりその日その日や秋の暮れ

眞理子

ふたづつの骸となれり放屁虫

ゆり子

梅の花仁王の肩に二、三片

幾子

薄れゆく彼の面影や春の雪

郁子

残るひなアヒルに託す北帰行

勝

生きているすべてを抱きて山眠る

よし子

羽ばたけば花粉散らして飛び去りぬ

雅代

湯豆腐の揺らと傾ぐる美しき白

信子

交々も悲の多々刺さる軒氷柱

義行

他人は他人我は我なり鷹渡る

さき子

冬なれど霊情感ず櫛の巨樹

ますみ

枝先に旅の途中かアキアカネ

賢三

小さき手でつくれば小さき雪うさぎ

きよか

退屈やいつもながらの二月過ぐ

饒

